

《チャイルドラインデータ資料》 2022年度・第3四半期

【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

《今期のポイント》

学校行事が多いこの時期は、「学校」の話が多くなります。前四半期（2022年7月～9月）では、学校が始まった9月に割合が高くなりましたが、11月12月はそれ以上になっています。ただ、前年同期（2021年10月～12月）との比較では、「学校」の割合は少し減少しています（P9）。

「つぶやく」は3ヶ月で6,683件となり、前四半期の6,184件を大きく上回りました。電話・オンラインチャットと同様に、9月～11月にかけて「学校」の割合が増加傾向になっています（P14）。

11月が「児童虐待防止推進月間」でもあり、今期のテーマは「虐待」としました（P2）。厚生労働省の発表によると、児童相談所による虐待相談対応件数は年々増加し、2021年度は20万7,659件（速報値）で過去最多となっています。チャイルドラインでは、虐待について「身体的虐待」「心理的虐待」「性的虐待」「ネグレクト」「教育虐待」のデータを取得していますが、今回は、「過干渉・教育虐待と性暴力」、昨年話題となった「宗教虐待」についても考えました。

【子どもの声】※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

▶お父さんが救急車で入院した。お母さんもついて行ったんだけど、お母さんは外国人で日本語がほとんどわからないから。病院のいろんな手続きとかは、全部ぼくがやった。病院の人が「すごいね」って。

▶両親が離婚するとき、将来お金に困るんだからお父さんにしなさい、って言われてお父さんと住んでる。けどあの人は怒ると止まらなくなるから、怖い。怖くて怖くて、逃げてきたの。もう家に帰れない。☆

▶中学のときからモデルの仕事をしてるんです。でもちょっと油断したら体重が増えてた。アイドルになりたいくて、オーディションいっぱい受けてるんだけど。私もうダメだなんて。終わったな。

▶前に同じクラスだった子たちが、クラス替えで別のクラスになったのに、わざわざいじめに来る。キモイとかオエーッとか言われて、靴を捨てられそうになった。だから学校に行かない。

▶女の子の服を着て、女子メイクもしっかりやって自撮り写真を撮るのが好き。インスタにあげると「わーきれい！」とか「かわいい！」って書かれて、フォロワーもすごく増えてきた。服とか化粧品買うのにもっとお金がほしい。

▶部活の打ち上げでお酒飲んだのが見つかって、停学になった。明日から復活だけど、きまり悪くて。行きたくなえな。

▶推しがいるんです。推しのYouTube見てると元気になって、生きがいができたと思ってるのに、友だちに話したら推しのことけなされた。すごいショック。

▶「斉藤さん」で知ってますか？そこで知り合った人とチャットしたりできるアプリなんだけど、写真も送れるようになって。知り合った女の子から写真がくるようになった。ちょっとヤバイかな。

▶好きな人にクリスマスプレゼントあげたいって思って、ストラップ買ったんだけど。あげる勇気がなくなってきちゃった。カードにはなんて書いたらいいですか？

▶さっきチャイルドラインにかけた人にウソついちゃったんです。謝りたいからかけたんですけど、さっきの人のいますか？謝ってたって、言っておいてくれますか？

（☆：今期のテーマ「虐待」に関する声）

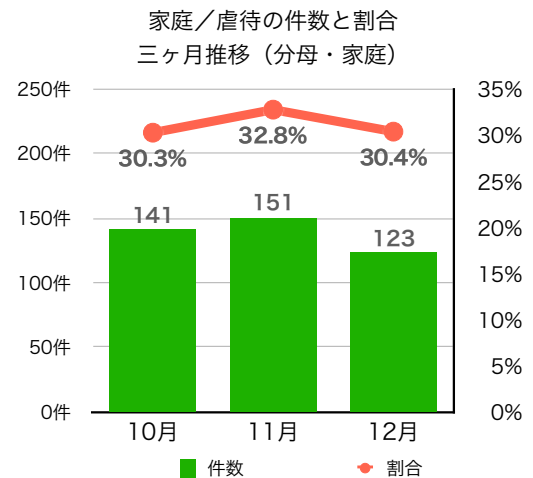
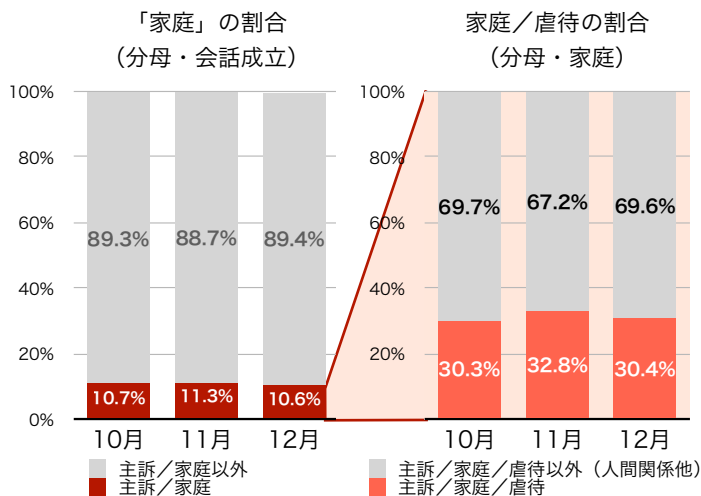
《第3四半期のテーマ「虐待」》

子どもからの話の内容は、「自分自身」「学校」「性」「家庭」の順に多くなっていますが、今回は「家庭／虐待」について考えます。

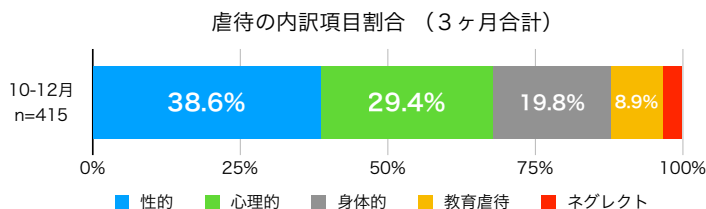
会話成立の中で「家庭」の割合は10％程度と多くはありませんが、3ヶ月通して似た割合で推移しています。さらに「家庭」の内、今回のテーマである「虐待」の割合は、約3割を占めていて、ここ3ヶ月は家庭の中の30％台で推移しています。「件数」でみると12月はやや件数が少ないですが、「割合」でみると大きな変化がないこともわかります。

「虐待の内訳」については、グラフの通りです。

◆会話成立・家庭を分母にした「虐待」割合



◆虐待の内訳



※月別は分母数が少なく誤差確率が上がるため、3ヶ月通した集計をしてみました。累積カウント（同じ人が複数回かけている場合がある）のため参考データですが、「性的虐待」が一番割合を占めている点は気になるところです。また時期（月別）によって虐待項目の変化がある可能性があります（年次報告等で分析をおこなっていきます）。

◆虐待の内訳で使用している、チャイルドラインとしての言葉の定義

〈性的虐待〉子どもへの性的行為の強要やそれらを見せることなど

〈心理的虐待〉大声で罵ること、拒否的態度をとること、子どもの前でのDVや激しい夫婦ゲンカなど

〈身体的虐待〉殴る、蹴るなどの身体への暴行

〈教育虐待〉子どもに過度な期待をかけ、保護者の期待に添えないと激しく叱責すること

〈ネグレクト〉子どもに食事を与えない、不潔な生活をさせるなどの「育児放棄」

◆第3四半期のテーマ「虐待」に関する声から

チャイルドラインに寄せられる子どもの声では、虐待の中で「性的虐待」が最も多くなっています。この話は言いにくいいため話せるところがあまりなく、何度も話している可能性もあると思われます。子どもの話を聴いていると、虐待と気づいていないことも多く、逆に自分を責めているケー

スも見受けられます。そして、父母（義理の関係を含む）からの被害が多いことも悲しい現実です。相談しづらい内容であることや家族間という密室内でのことのため発見が遅れがちです。子どもには自分の身体も心も守る権利があることをぜひ知ってほしいし、同時に性教育の必要性を強く感じます。

「教育虐待」は最近多くなってきたように思います。進路に関して、「親の希望で進路を決められた」「自分は他に行きたい学校があるのにいくら言ってもきいてもらえない」などという声が寄せられます。経済的に保護者に頼らざるを得ない子どもにとって、親の判断を覆すことは並大抵のことではありません。

子ども手当をギャンブルに使う、子どもに生活費を負担させるなどの「経済的虐待」もきかれるようになってきました。身体的虐待とは違い、子ども自身では虐待という認識を持ちにくいものです。経済的虐待に限らず、ということが虐待なのか、自分の権利がどのように侵害されているのかを子どもが学べる機会も必要ではないでしょうか。

虐待で子どもが命を落とすという報道が後を絶ちません。「しつけのために」「子どもためを思って」などとおとなは言いますが、今の自分の苛立ちや欲望を「しつけ」とすり替えているだけのように思えます。虐待は子どもへの権利侵害です。子どもは保護者の所有物ではなく、おとなと同様の権利を持っている対等な存在です。そのことを何よりもまずおとなに知ってもらいたい。そして、子どもの声を聴くチャイルドラインは、権利侵害を受ける子どもの声を社会に発信していくことが大きな役割だと考えています。

○過干渉・教育虐待と性暴力

虐待の中でも、暴力と認識されにくいのが教育虐待です。親の子どもへの期待や良かれと思う気持ちが行き過ぎて、要求や管理が厳しくなり、子どもをコントロールし自由を奪っていきます。そういった環境で育っていくと、自分では何も決められなくなってしまうたり、親の期待に応えようと無理をしたりします。更に親の期待通りになれないと「自分は迷惑をかける存在だ」とか「生きていても意味がない」などという考えを持つようになります。そのストレスのはけ口として自傷行為や、親に隠れて居場所を見つけ非行に走ったり、いじめをしている場合もあります。また、自分のありのままを必要としてくれる人を求めて、SNSなどでおとなとつながり性暴力を受ける子どもも少なくありません。

おとなにとって理解できない行動も、子どもにはそうする理由があります。表に見えている行動だけでその子どもを判断せず、なぜそう行動するのか、意味を理解していく必要があります。

○宗教虐待

昨年、宗教2世の男性が起こした元首相の殺害事件をきっかけに、宗教虐待の問題が注目されるようになりました。保護者が信仰する宗教の教義を子どもに強制する、礼拝や宗教的行動を強要する、などの行為や、家族を経済困窮に陥れるほど高額な献金は、子どもの自由を奪い、心の健康を阻害する虐待です。

子どもから届く声の中にも、宗教にかかわる訴えがあります。ある宗教2世の高校生は、「幼いころから親に教団の広報紙の配達をさせられ、教会にも毎週連れて行かれた、高校に入ってから教団の行事を優先する親から部活動も修学旅行も禁止され、従わないと叩かれる（※）」と話しました。「親友のママが宗教団体の幹部なので親から『もう遊んではダメ』と言われた（※）」という小学生の場合は、宗教虐待とは違いますが、親の信仰に否応なく巻き込まれ辛さを抱える子どもがいることの例です。

宗教に起因する子どもの権利侵害は、周囲のおとながすばやく見つけて子どもによりそい、保護につなげること、また宗教的マインドコントロール下にある保護者に対しては、救済する外部の働きかけが必要なのだと思います。

（※）個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

《データ資料概要と注意点》

2022年10月～2022年11月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける“データベース”等を基に、集計しました。

- ・ 期間：《2022年度・第2四半期》2022年10月～2022年12月（速報値）
- ・ データ集計日：2022年2月13日

- ・ 集計数（分母）：

【トラフィックデータ】（発信件数・今回使用したデータのみ掲載）

	7月	8月	9月	3ヶ月計	10月	11月	12月	3ヶ月計
2021年度					38,670	40,135	34,769	113,574
2022年度	43,027	39,539	37,287	119,853	39,677	35,367	33,493	108,537

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

	7月	8月	9月	3ヶ月計	10月	11月	12月	3ヶ月計
2021年度（全体）					12,490	14,316	12,074	38,880
2022年度（全体）	15,273	15,519	14,097	44,889	15,702	14,782	13,139	43,623
2021年度（会話成立）					4,034	4,824	3,897	12,755
2022年度（会話成立）	4,526	4,296	4,027	12,849	4,364	4,096	3,827	12,287

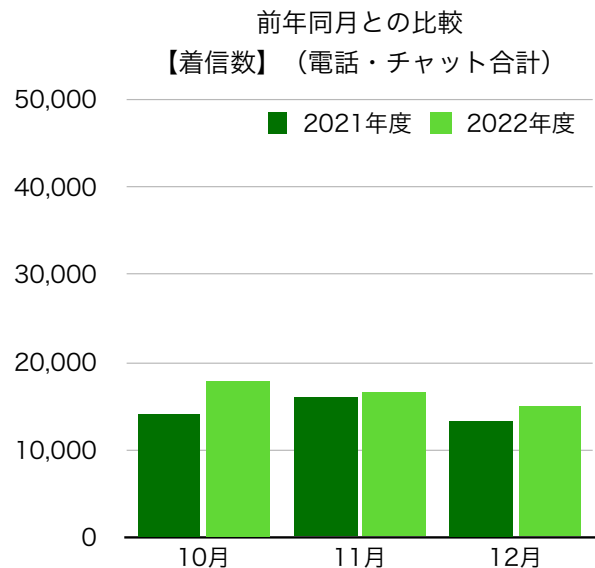
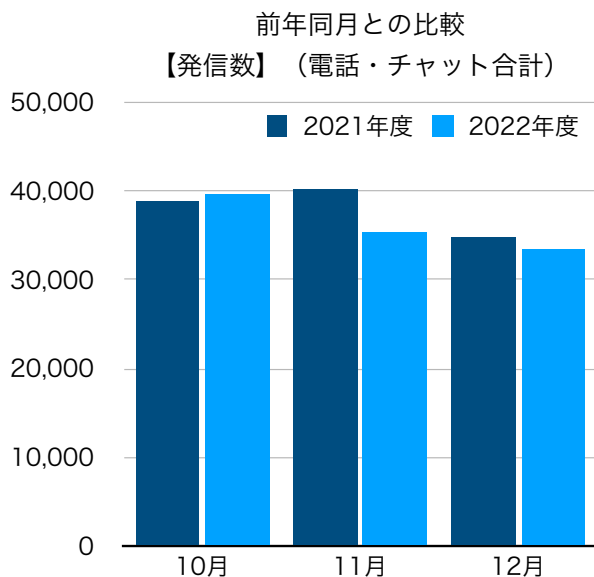
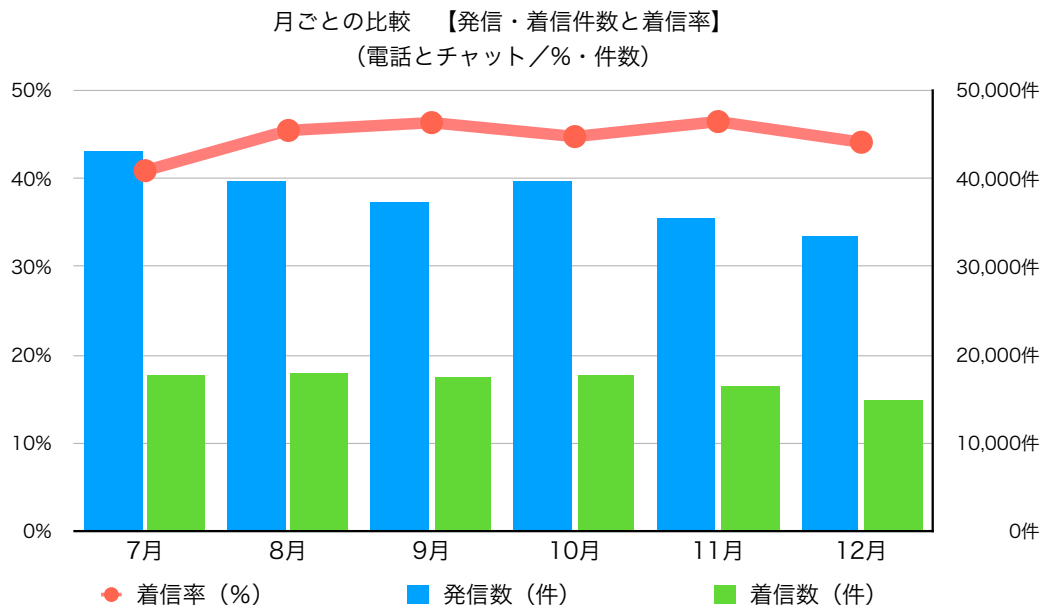
※（全体）は会話成立、会話不成立、無言等を含んだ全体集計数 ※他資料とはデータが異なる場合がある。

- ・ 表記の定義：
 - 「％」＝上記項目の分母（集計した数）の割合
 - 「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数
 - 「ポイント」＝パーセントポイント（他の％をポイントにして比較）
- ・ データの種類：【トラフィックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、チャット＝AI.BiSから取得
【データベース】電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積
- ・ データの性質：データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提として扱う必要がある
- ・ データの注意点：各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、グラフのデータと他のグラフデータに数字の違いが生じる場合があります。
- ・ 報道関係の皆様へ：データ・資料について取材、ご利用・ご引用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

《トラヒックデータ／発信数・着信数》

トラヒックデータの発信数・着信数は、この3ヶ月では、発信数は10月に多かった。6ヶ月の推移を見てみると、着信率は、7月以外は大きな変化はない模様。着信数は年末にかけてやや減少した。

前年同月との比較を見てみると、発信数は、12月に減少、着信数は、10月と12月に増加した。

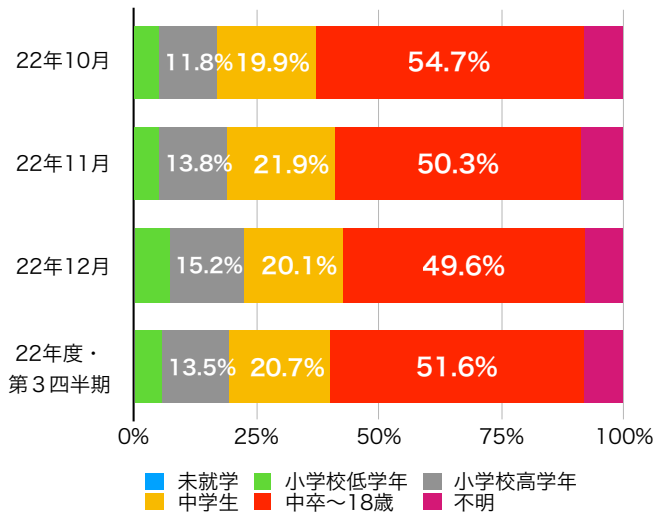


《データベース・年齢（会話成立）》

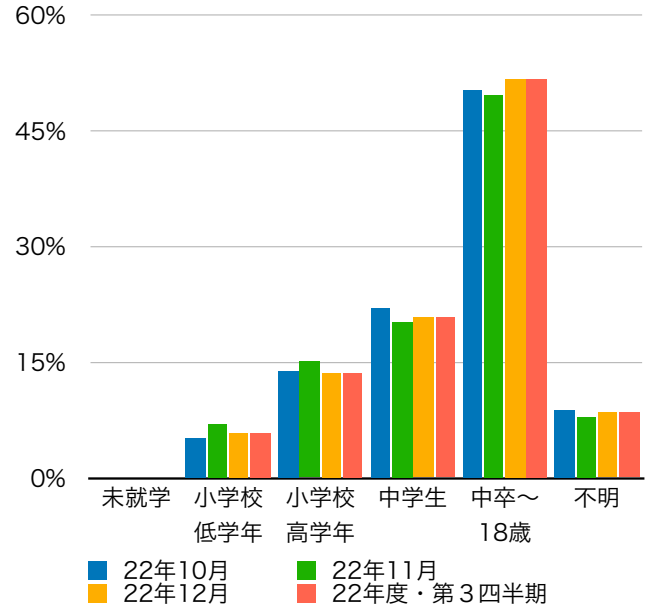
ここからはデータベースの「会話成立」に絞ったデータを紹介する。まず「年齢」別の集計から。

年齢の割合は、3ヶ月通じて高校年齢割合が多く（約5割以上）、月別割合はやや10月が高校年齢が多かった。前年同時期からの増減は、大きな変化はなかった。

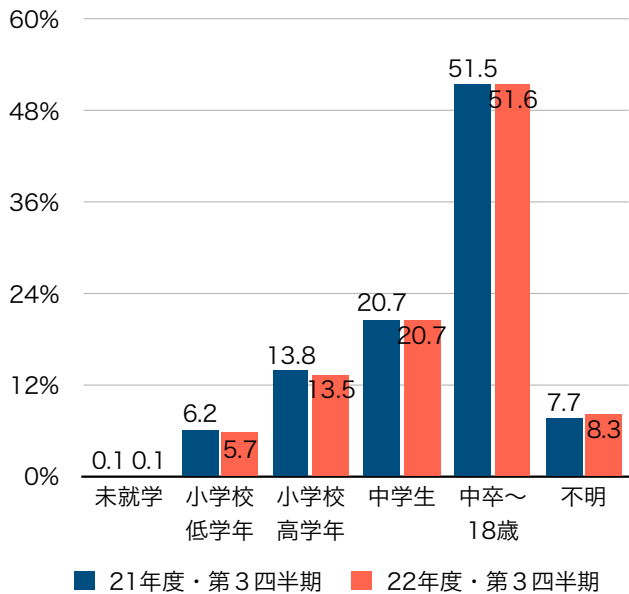
月別・年齢別割合（会話成立）



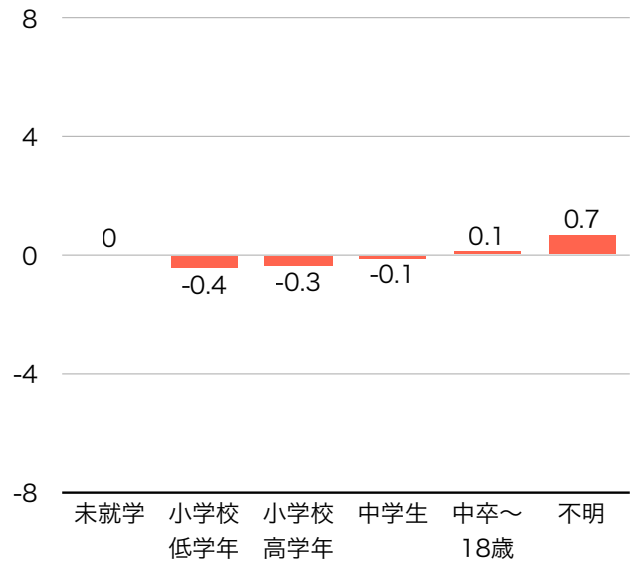
月別割合の推移（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）

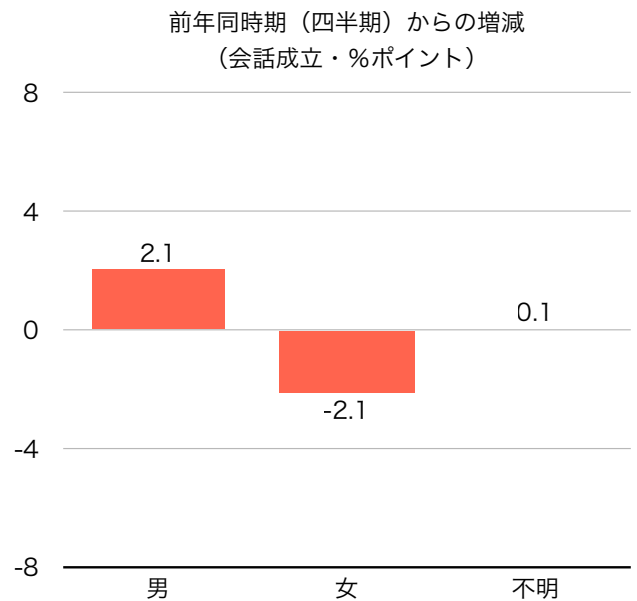
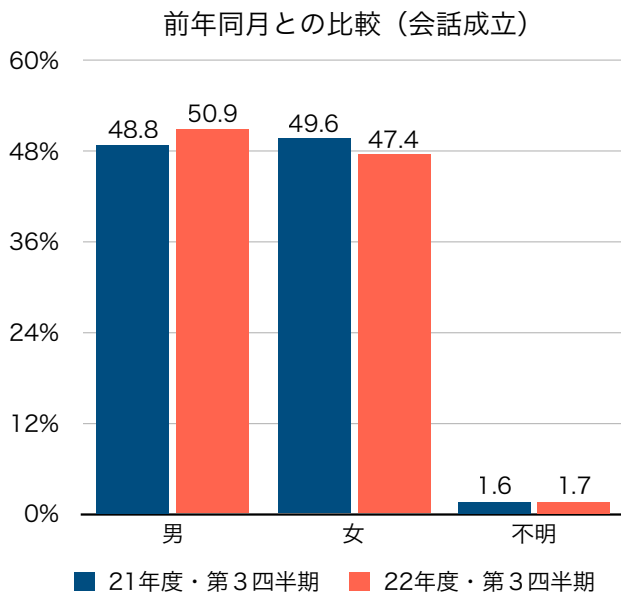
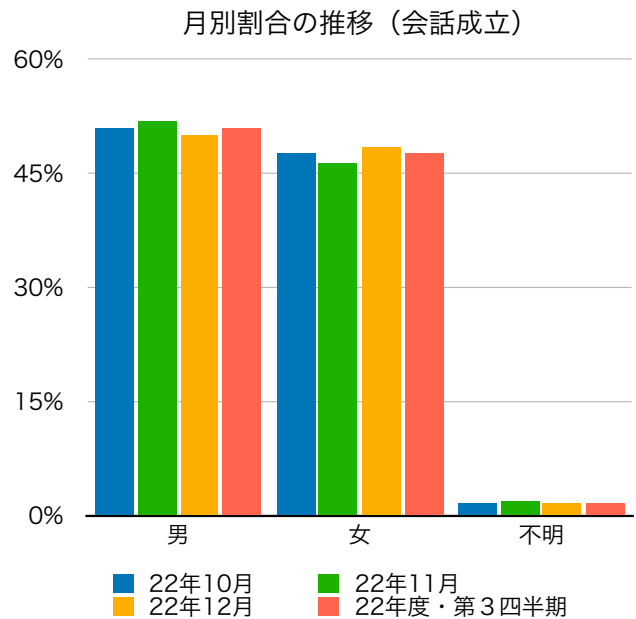
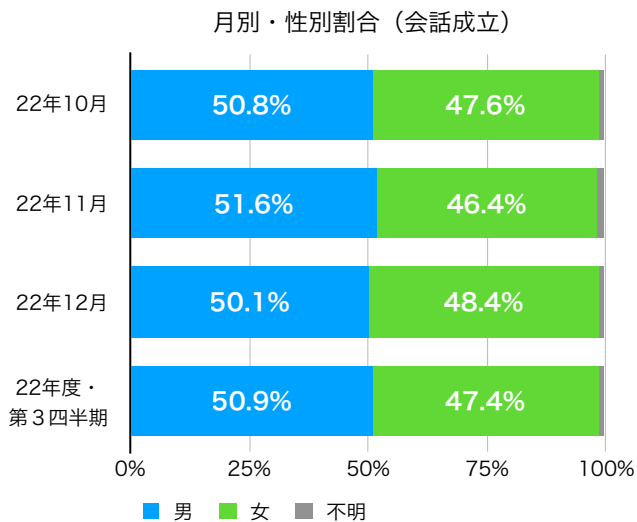


前年同時期（四半期）からの増減
（会話成立・%ポイント）



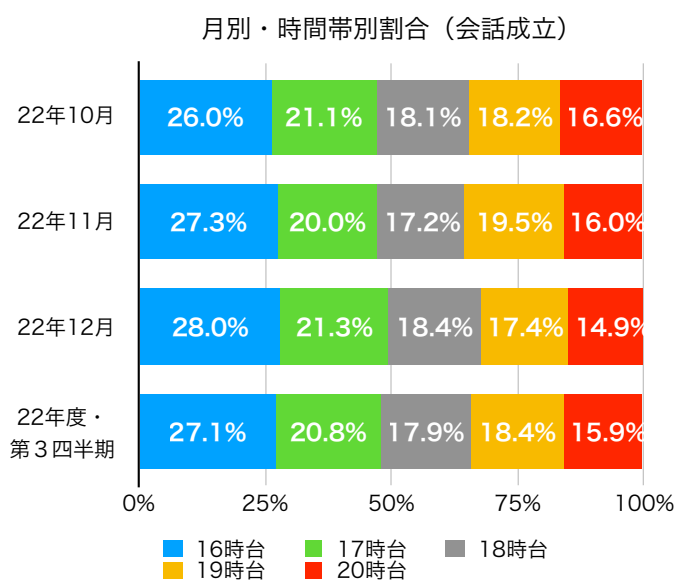
《データベース・性別（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「性別」を集計した。男女ともに割合に大きな変化はない。前年同月との比較では、やや男性が増加し、女性が減少した。

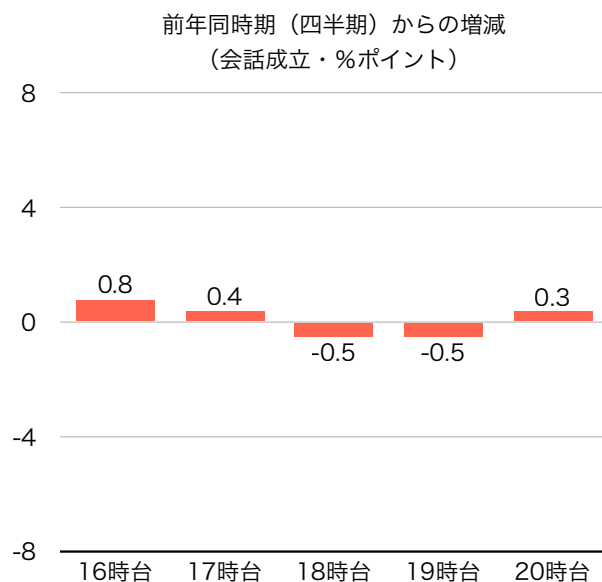
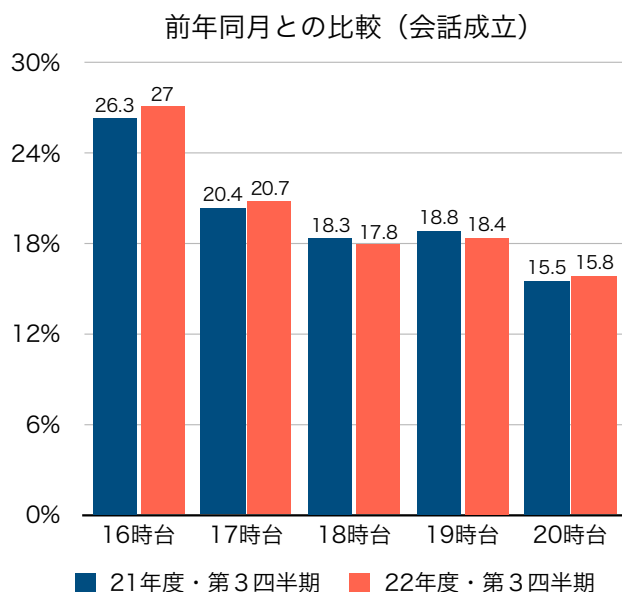
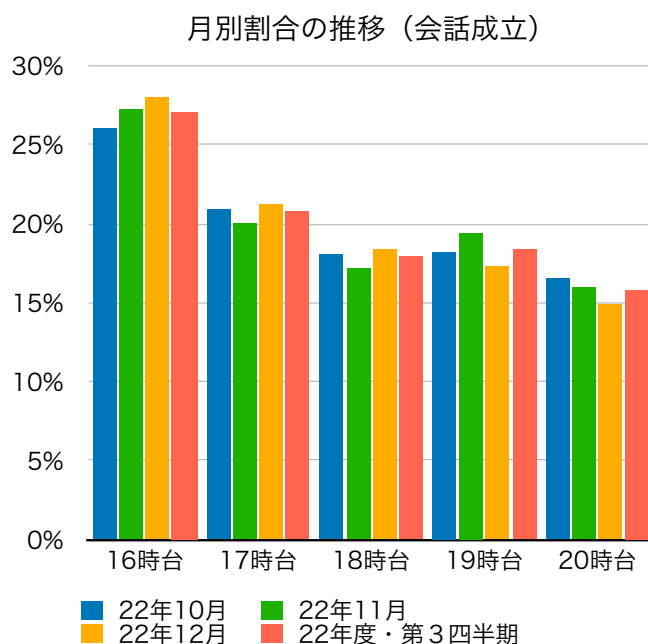


《データベース・時間帯（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「時間帯」を集計した。各時間帯とも特に大きな変化は見られない。前年同月との比較においても、大きな変化はなかった。



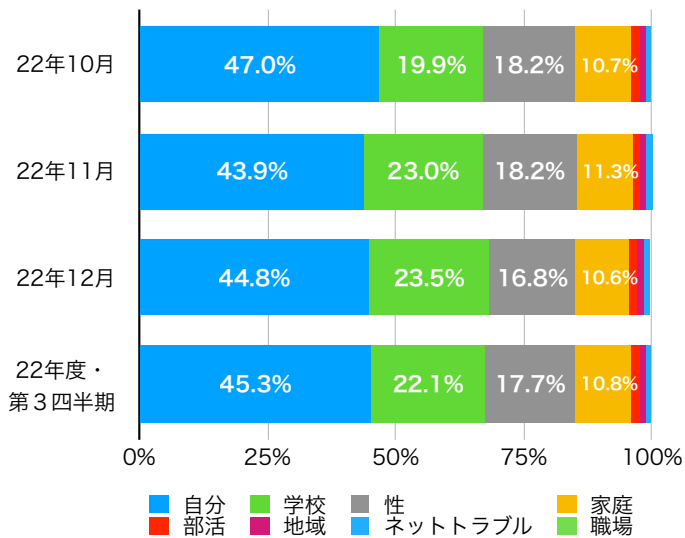
※上記の時間帯も一部集計されているが、今回は除外した。



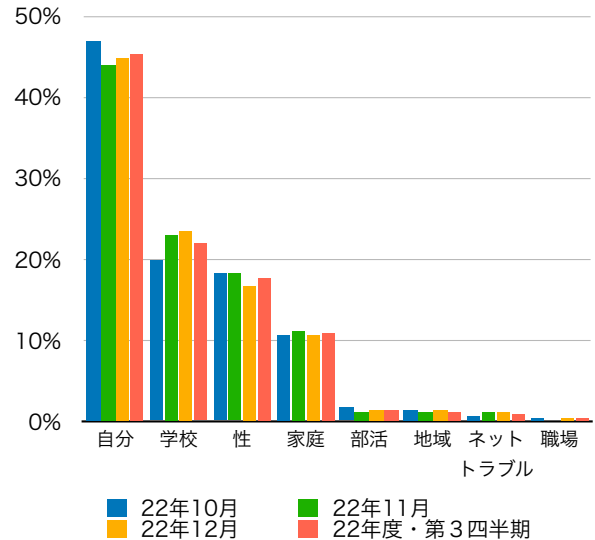
《データベース・主訴【大項目】（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴【大項目】」を集計した。10月は「自分」がやや増加し、「学校」が減少している傾向にあった。前年同月との比較は、「性」がやや増加した。

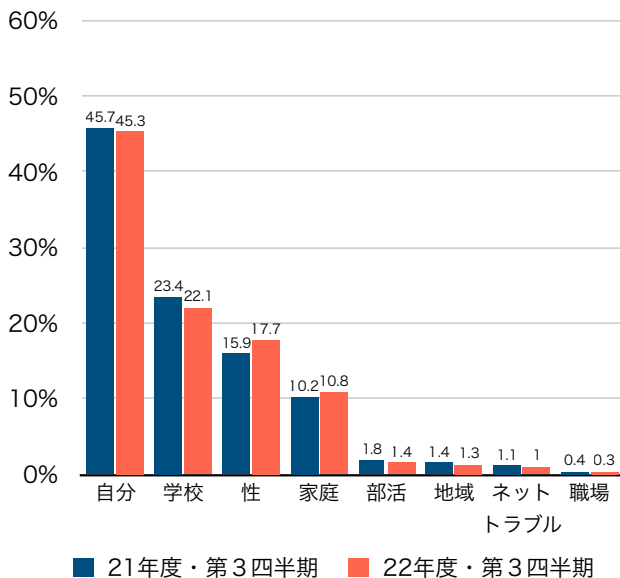
月別・主訴別割合（会話成立）



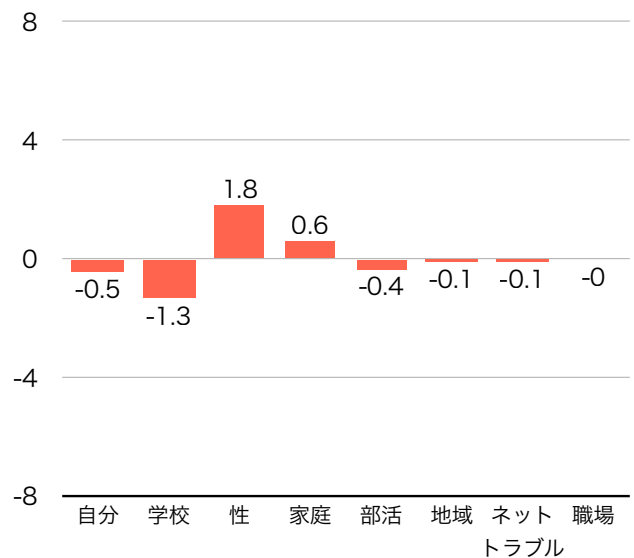
月別割合の推移（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）



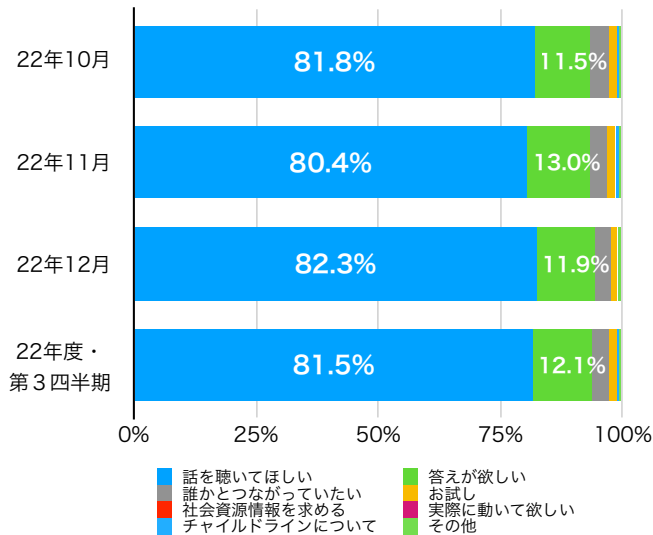
前年同時期（四半期）からの増減
（会話成立・%ポイント）



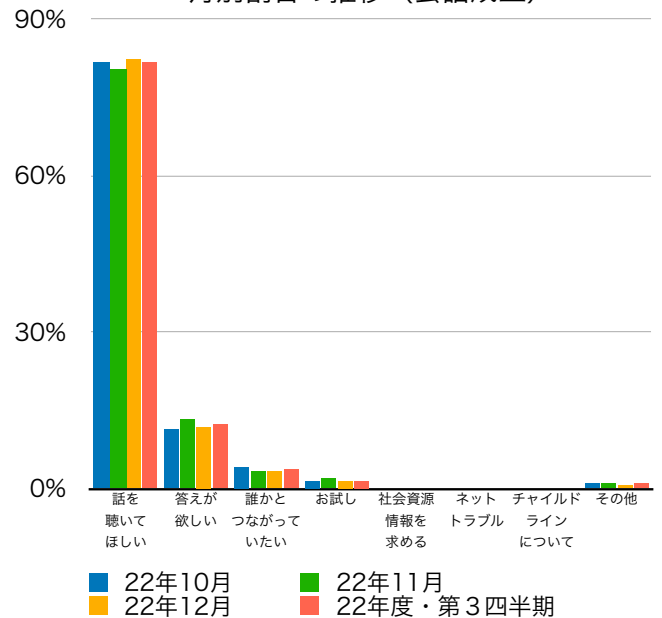
《データベース・動機（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「動機」を集計した。全体として「話を聴いてほしい」が大きな割合を占めている。前年同月との比較においては、「話を聴いてほしい」がやや増加した。

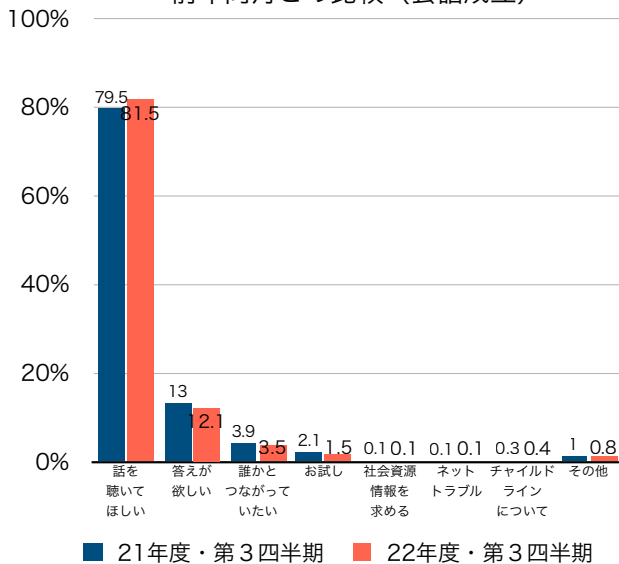
月別・動機別割合（会話成立）



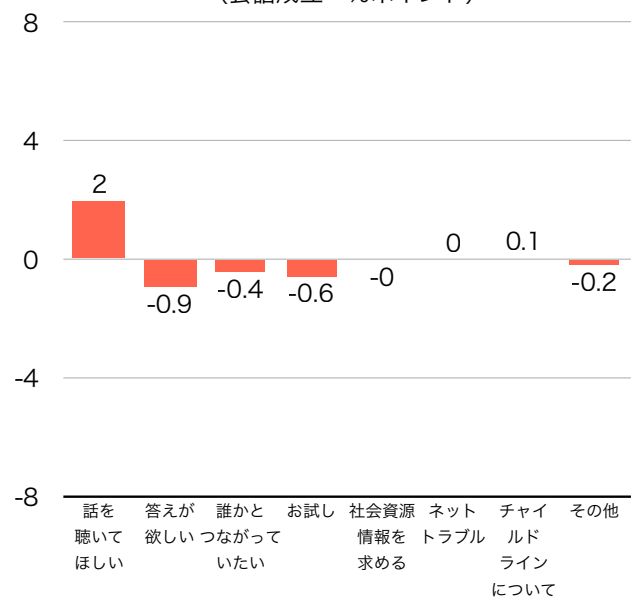
月別割合の推移（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

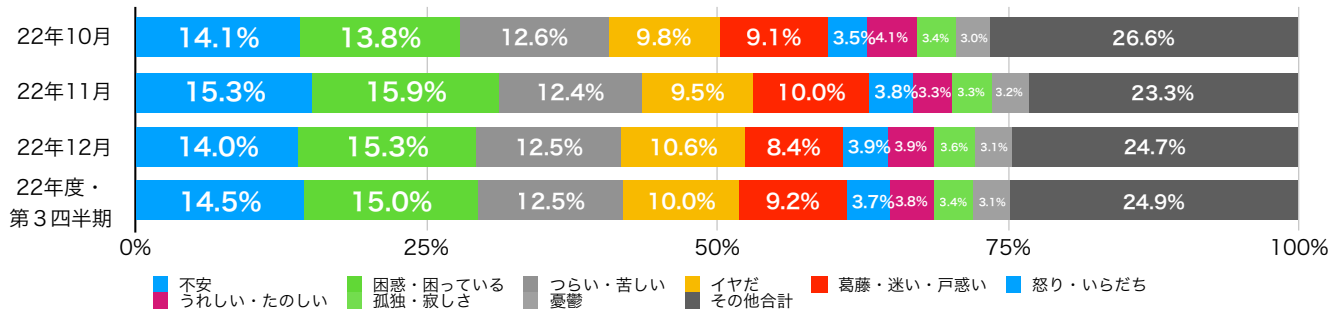


《データベース・気持ち（会話成立）》

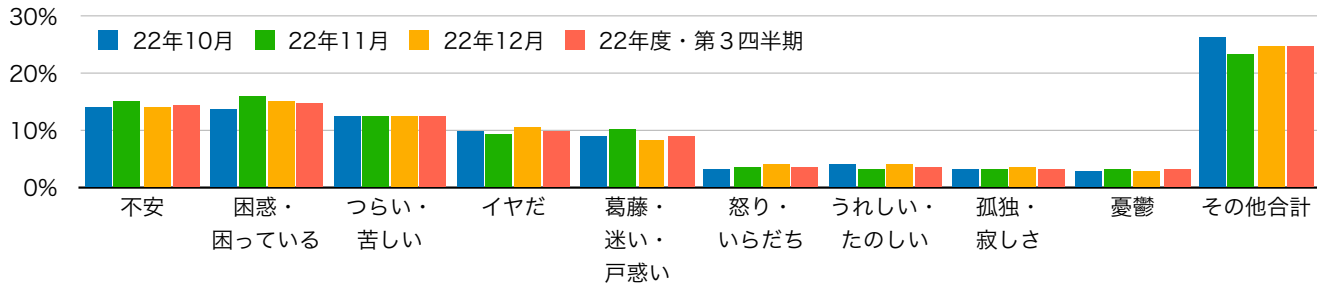
データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を集計した。月別割合を見ると、「不安」「困惑・困っている」がやや多く、11月の項目にやや変化があった。前年同月との比較においては、「その他合計」がやや減少し、他の項目はわずかな変化だった。

（※一部、項目において、割合が多い順ではない箇所があるが、前回グラフの割合順に統一して表記した）

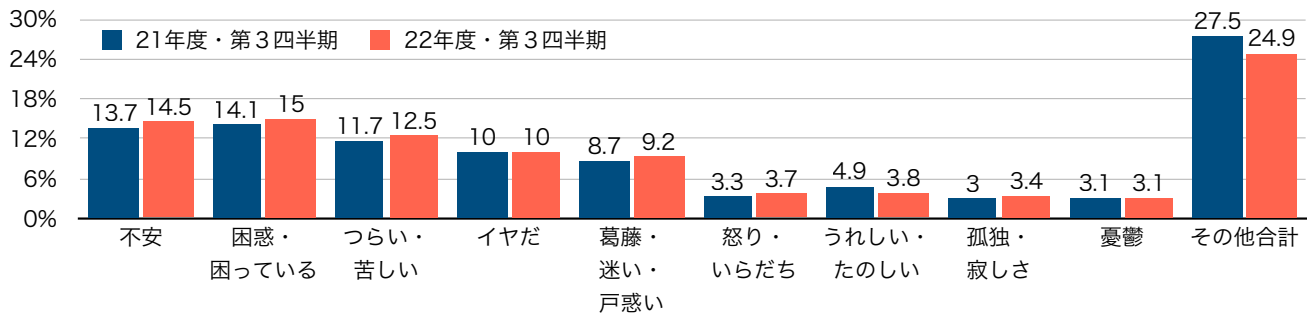
月別・気持ち別割合（会話成立）



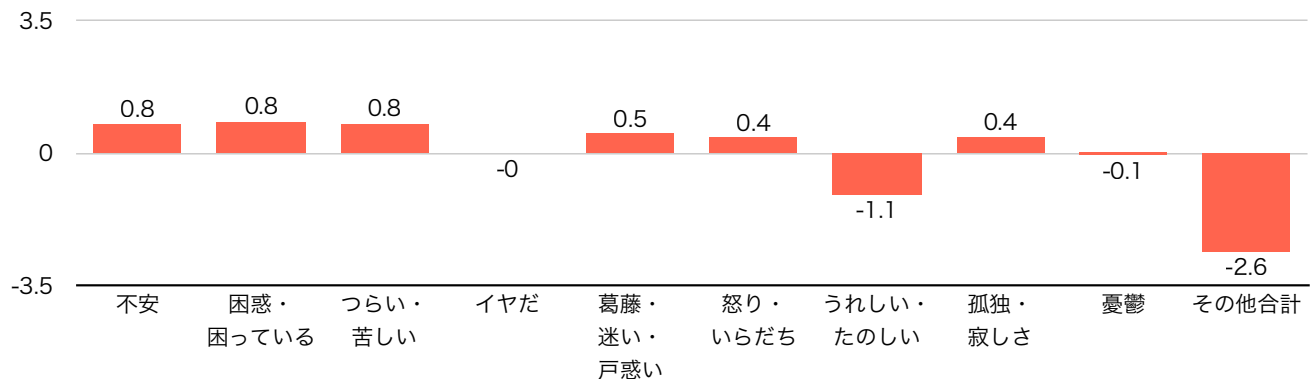
月別割合の推移（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）



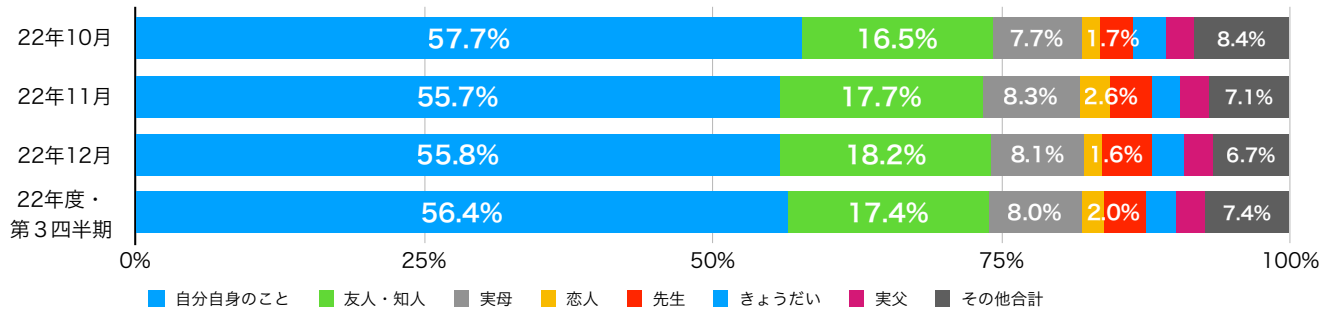
前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）



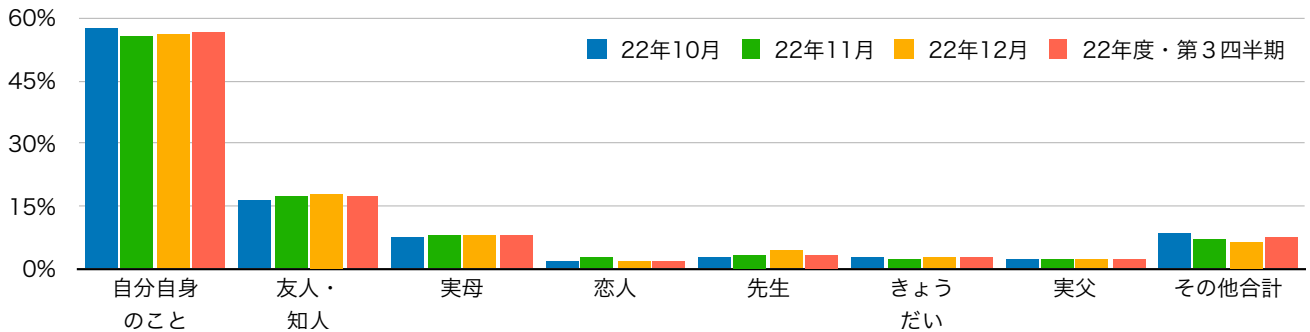
《データベース・関係性（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「関係性」を集計した。全体として「自分自身のこと」の割合が多い。前年同月との比較は大きな変化はなかった。

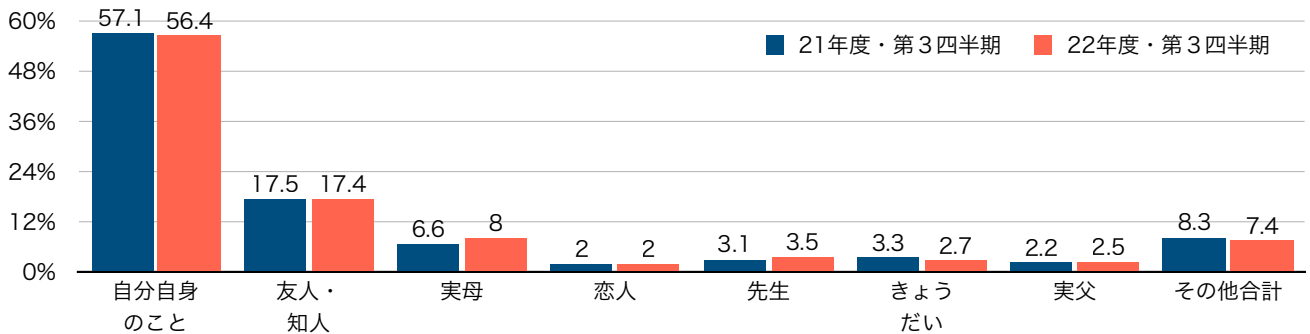
月別・関係性別割合（会話成立）



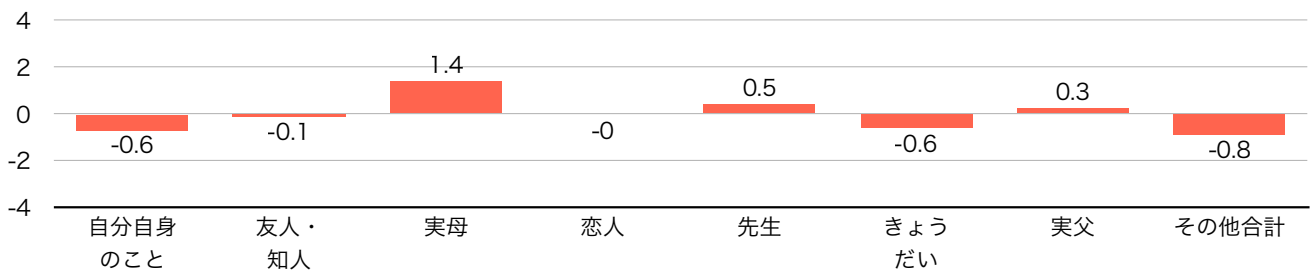
月別割合の推移（会話成立）



前年同月との比較（会話成立）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

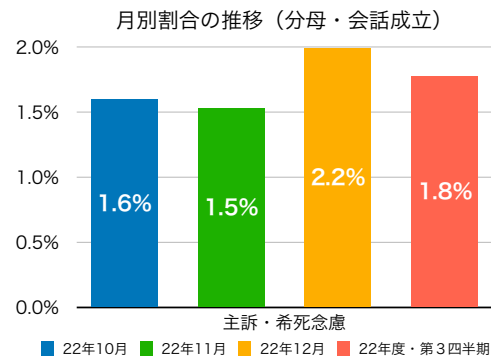


《データベース・「希死念慮を主訴とするもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮を主訴とするもの」を集計した。集計数が少ないので、参考値。月別割合の推移は、他のページと違い、グラフ数値を拡大している。

希死念慮を主訴とするものの件数

年月	件数
22年10月	70件
22年11月	63件
22年12月	86件
合計	219件

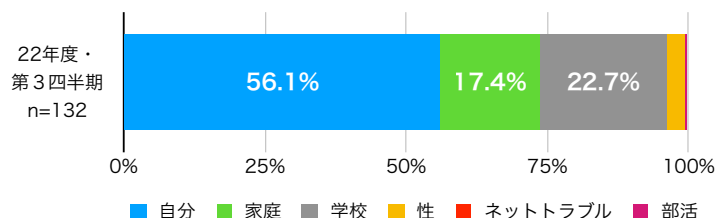


《データベース・「希死念慮が背景にあるもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮が背景にあるもの」の「主訴」を集計した。各月で僅かな変化はあるが、件数自体が少ないので誤差の範囲と考えられる。また、主訴の割合を見ると、自分、学校、家庭が多い（前回グラフと同じ順番にしている）。

背景に希死念慮がある件数

年月	件数
22年10月	52件
22年11月	37件
22年12月	43件
合計	132件



《「つぶやく」に寄せられた声の傾向》

こちらは、ウェブページ上の「つぶやく」に寄せられた声を集計したもの（属性などは自己申告・記入）。10月から12月につぶやかれた件数は、約6,683件。さまざまな内容、性別、年齢の子どもから利用されていることが分かる。

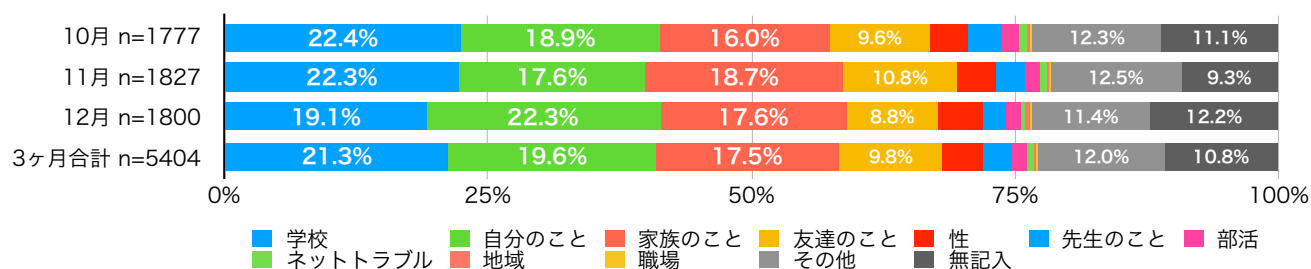
つぶやいた内容のジャンルは、「学校のこと」「自分のこと」「家族のこと」が多く、続いて、「友達のこと」「その他」となっている。続いて、公開してもよい人が記入した性別は、「女性」が圧倒的に多い。また「いいたくない」という回答も2割弱いた。

また、公開してもよい人が記入した年齢は、概ね10歳から14歳ぐらいまでが各7～17%と最も多い。

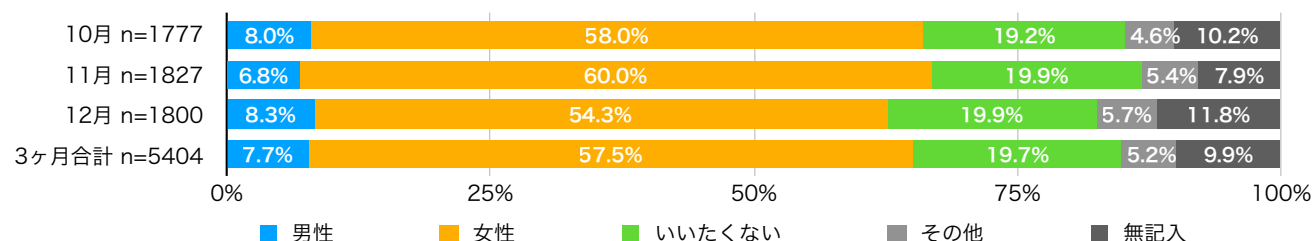
つぶやきに書き込みがあった総数

10月	11月	12月	10-12月計
2,216件	2,256件	2,211件	6,683件

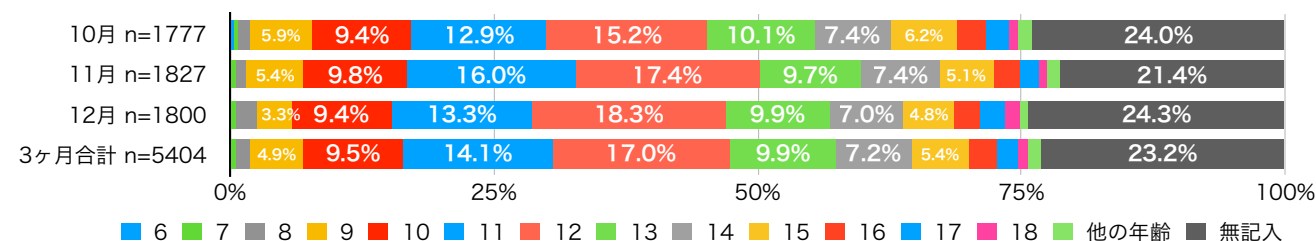
【つぶやく】月別・ジャンル割合（公開してもよい人）



【つぶやく】月別・性別割合（公開してもよい人・自己申告）



【つぶやく】月別・年齢割合（公開してもよい人・自己申告）



【この資料に関する問い合わせ】

作成：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F
メール：info@childline.or.jp 電話：03-5946-8500
ウェブサイト：<https://childline.or.jp/>